

二度と同じ事故を起こさないために

NHK記者 橋本 尚樹

自己紹介

- NHK社会部記者 橋本尚樹（35）
- おとし、国交省クラブで鉄道を担当。視覚障害者のホーム転落事故などを取材。
→東京メトロ東陽町駅、東武鉄道下赤塚駅の転落事故、京急久里浜駅のドア挟まれ事故などで、当事者の視点で事故分析の必要性を認識。
- 去年8月、静岡県三島市の踏切で弱視の20代の男性が亡くなる事故。
→踏切でもホーム同様に事故の原因を分析した上で対策が必要。

①静岡県三島市の踏切事故

- 去年8月14日午後9時半ごろ、伊豆箱根鉄道の踏切で発生。
- 新幹線の駅にほど近い、三島市の中心部。
- 亡くなったのは、26歳の弱視の男性。
- 白杖を持って1人で日常的に出かける。
- 構造の複雑な踏切。遮断機の内外を勘違いした可能性。
- 踏切の外にも警告ブロックなし。

①静岡県三島市の踏切事故

1. 報道各社。当時、ほとんど報道されず、事故が知られず。
2. 国など。電車の先頭のカメラ確認せず。状況確認が不十分。
3. 事故防止対策。中心部の危険性の高い踏切にも関わらず、警告ブロックすら存在せず。踏切にも危険を知らせる設備が必要。

②踏切の事故対策の課題

- ことし4月で奈良県大和郡山市でも踏切で事故。50代女性亡くなる。
→事故の再発を防ぐことが出来ず、対策が急務。

- 6月に国のガイドライン改定。

踏切内は「表面に凹凸のある誘導表示等」の設置が望ましいと記載。

→全国で設置は進まず。設置の構造を具体化するために、できる限り多くの当事者から話を聞くなどの調査が必要。

→全国統一的な方針を国が早期に決めるべき。三島の現場は検討中の状態。

③全ての人のための安全設備の開発

- 踏切内に取り残された人をカメラで自動的に検知して列車を止める設備。

→今月、西武鉄道の一部踏切で導入。兵庫県の山陽電気鉄道でも。

- 事後検証のために列車や踏切にもカメラの設置が必要。

→ドライブレコーダーが普及する時代にも関わらず、大手鉄道会社でも列車の前方や踏切にカメラの設置がないケースが多い。

最後に

後日でも構いませんので、ぜひ気になることや情報などをお寄せください。

N H K 社会部 橋本尚樹
hashimoto.n-gy@nhk.or.jp

※返信が遅いケースもありますが、ご容赦ください。